

5. がんプロフェッショナル養成プラン

1) はじめに

文部科学省は、令和5年度より第4期がん対策推進基本計画の人材育成の施策として「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業に取り組んでおり、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムは、「地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成」事業を展開している。本学は、がんプロ第1期からがん高度実践看護師WGの幹事校としてがん看護専門看護師の養成およびがん看護の質向上に向けた取り組みを行っている。令和6年度は、本学と徳島大学大学院、山口大学大学院、鳥取大学大学院の4大学院で取り組んだ。

2) がん高度実践看護師WGの活動

がん高度実践看護師WGでは、「1. がん高度実践看護師の養成」「2. がん医療における質の高いがん看護実践の推進」を2つの活動テーマに挙げ、①各大学によるがん高度実践看護師の育成、②がん高度実践看護師インテンシブコースの開講、③がん高度実践看護師WG講演会の開催、④大学院がん看護学合同セミナーの開催、⑤11 大学院チーム医療合同演習への参加（教員はFD）⑥H.P.などによる広報活動、⑦各大学におけるセミナー・特別講義の開催、⑧修了生に対するがん看護CNS認定試験までのサポートの8つの活動に取り組んでいる（図1）。

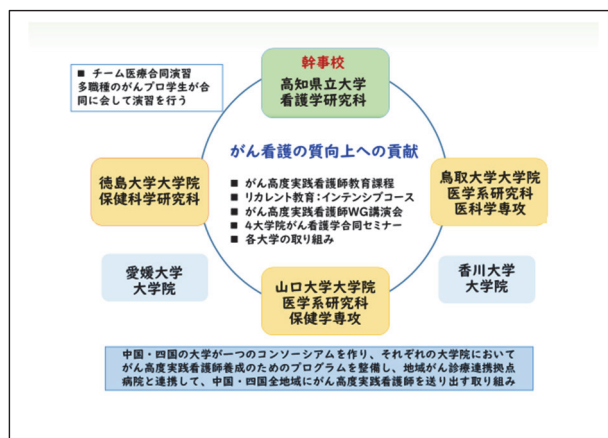


図1 がん高度実践看護師WGの活動

3) 高知県立大学の取り組み

高知県立大学大学院では、「1. がん高度実践看護師の養成」では、38単位の教育課程のプログラムに加え、がん看護実践を豊かにする取り組みを行っている。令和6年度は、2名が入学し、修了生の3名ががん看護専門看護師の認定を受けた。

「2. がん医療における質の高いがん看護実践の推進」活動としては、リカレント教育プログラムを開講している。

(1) がん高度実践看護師の実践力を豊かにする取り組み

令和6年度は、がん看護実践看護師教育課程に加え、がん看護実践を豊かにする取り組みとして、以下のような取り組みを行った。

①がん高度実践看護師（APN）セミナー

- ・日時：2024年6月6日（木）、6月10日（月）、6月21日（金）、6月24日（月）、7月5日（金）、7月12日（金）、7月18日（木）の7日間
- ・場所：高知県立大学看護学部棟 C322
- ・参加者：各回4～6名（がん看護学領域学生7日間合計31名）

高知県内で活躍する修了生のがん看護専門看護師より、高度実践看護師としての役割機能別に、実践、倫理調整、コンサルテーション、コーディネーション、教育、研究の事例など、活動の実際についてご講義いただいた。学生は、先輩の体験を通し、高度な看護実践の在り方や専門看護師の役

割機能をどのように発揮していくのか等について具体的に学ぶ機会となり、学生自身が目指す高度実践看護師についての目標や課題を見出すことができていた。

(2) がん医療における質の高いがん看護実践の推進：リカレント教育

① がん高度実践看護師WG講演会 in Kochi

- ・日時：2024年7月14日（日）13：00～16：40
- ・場所：高知県立大学池キャンパス Web(Zoom)開催
- ・テーマ：がんゲノム医療における意思決定支援
- ・講師／テーマ
平沢 晃 先生（岡山大学学術研究院医歯薬学域臨床遺伝子医療学分野教授）
「がんゲノム医療における基本的な知識と看護師への期待」
荒木 もも子 先生（島根大学医学部附属病院臨床遺伝・ゲノム医療センター副看護師長）
「がんゲノム医療を受ける患者・家族の支援～看護師に期待される役割と課題～」
- ・参加者：79名

第4期の全体の活動目標は、がん医療の新たなニーズやアンメットニーズに応えるケアの質向上を推進する看護師養成である。2024年度は、「がんゲノム医療における意思決定支援」をテーマに、中四国全県、東京、近畿、九州などから79名の方々にご参加いただき、web(Zoom)での講演を開催した。

平沢 晃 先生には、がんゲノム医療のこれまでの歩みと定義、がん遺伝子パネル検査、治療の最適化と発症予防のためのがんゲノム医療についてご講義いただいた。

荒木 もも子 先生には、遺伝とがん、遺伝性腫瘍について具体的な事例を踏まえてご講義いただき、看護職が正しい知識を得ることの重要性と看護職に求められる役割について考えることができた。

アンケートでは、講演会の内容について93.1%が非常によくわかった、よくわかったと回答し、「最新の情報を得られた事は大変貴重な機会だった」、「本人、家族の意思決定について、それぞれ納得できるような支援ができるように今後も学んでいきたい」という意見があった。参加者にとって最新の知見を得られるだけでなく、自らの看護について振り返り、明日からの看護に向けて考える機会となった。

② がん高度実践看護師（APN）コース：リカレント教育プログラム

第4期の全体の活動目標は、がんサバイバーシップを支える専門性の高い看護師養成である。2024年度は「Extended(延長された生存) & Permanent(長期的に安定した生存) Stageにあるがんサバイバーへの支援」をテーマに、4単位60時間（8日間）の教育コースを実施した（表1）。

受講者は39名であり、高知、愛媛、香川、岡山、広島、山口、島根、鳥取、兵庫、大阪、福岡、岐阜、東京と、中国・四国のみならず全国各地から参加があった。受講者のうち32名が修了した。

受講生からは、「Extended&Permanent Stageにおける特徴を知ることができた、多職種と協働できる点を具体的に知れた」、「今回のようにサバイバーに関してまとまった講義を受ける機会はなかなかないので受講して良かった」、「専門性の高い講師からのわかりやすい講義や、グループワークでの学びがあり、得るものが大きい」、「具体的な内容かつスライドがまとまっていて、大変分かりやすい」、「資料がデータでもらえたので復習しやすい」、「グループワークで学びが深まった」、「地域のCN・CNSとも交流する機会が持つことができ、充実した研修」、「事例を通して理論に基づいて考えることができたので日々の看護実践に活かしていきたい」という意見が聞かれた。

また、すべて Web 開催としたことについて、「Web 開催は時間的・経済的負担が少なかった。現地開催だと移動の費用や時間もかかり参加できなかった」、「遠方なので事前宿泊で 3 日間連続した休みの希望を 4 か月のあいだ職場にだすのは難しい」、「Web でも十分グループワークはできた」、「今後も Web 開催をしていただきたい」などの意見をいただいた。

表 1 2024 年度がん高度実践看護師（APN）コースの内容

目 的	がんの初期治療を終了後も残存する機能障害や生活障害のあるがんサバイバーに対する専門的知識と技術を学び、がんサバイバー・家族のニーズや潜在化した課題、アンメットニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力を修得する。
対 象	専門看護師、大学院修士課程修了者、がん看護に関連する認定看護師
修 了 要 件	本教育プログラムで定める科目（1 単位 15 時間）をオンラインで 4 単位 60 時間のうち 8 割以上受講すること
履 修 期 間	2024 年 9/7(土), 8(日)、10/5(土), 6(日)、 11/2(土), 3(日)、12/14(土), 15(日)
履 修 科 目	＜がんサバイバー診断治療学：1 単位 15 時間＞ Extended & Permanent Stage にあるがんサバイバーの生活を支えるために、初期治療後も残存する機能障害や生活障害について、医学的・解剖学的視点から理解することにより、患者のアセスメント能力を獲得することを目指す。また、残存する機能障害や生活障害に対する対応方法について理解を深め、看護実践について考察する。 講師：医師 5 名、がん専門薬剤師 1 名、高知県立大学看護学部教員
	＜がんサバイバー看護基盤論：1 単位 15 時間＞ Extended & Permanent Stage にあるがんサバイバーの機能障害や生活障害についての知識を踏まえ、身体的・心理的・社会的な課題を理解するとともに、がん看護に活用できる概念や理論を理解し、がんサバイバーへの看護実践を検討する。 講師：がん看護 CNS5 名、医療ソーシャルワーカー 1 名、高知県立大学看護学部教員
	＜がんサバイバー看護実践論：1 単位 15 時間＞ Extended & Permanent Stage にあるがんサバイバーの機能障害や生活障害および病態の理解を踏まえ、がんサバイバーの生活の質の向上につながる看護実践を学修する。また、がんサバイバーを支える社会の様々な取り組みについて学修する。 講師：がん看護 CNS3 名、家族支援 CNS1 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名、医療ソーシャルワーカー 1 名
	＜がんサバイバー看護展開論：1 単位 15 時間＞ 科目 1～3 の学習を踏まえて、高度な看護実践を展開できる能力を獲得し、Extended & Permanent Stage にあるがんサバイバーに対する看護援助を考える。 講師：高知県立大学看護学部教員 4 名
受講者	39 名 うち 32 名が修了 がん看護 CNS 14 名、家族支援 CNS 1 名、緩和ケア CN14 名、がん化学療法看護 CN 3 名、 がん放射線療法看護 CN 2 名、がん性疼痛看護 CN 2 名、乳がん看護 CN 1 名、 がん薬物療法看護 CN 1 名、大学院生 1 名

おわりに

第4期(令和5度～令和10年度)のがんプロフェッショナル養成プランにおいて、本学は第1期より継続してがん高度実践看護師WGの幹事校として活動を行っている。現在、修了生の49名ががん看護専門看護師として様々な場で活動している。

今後は、愛媛大学に2025年度新設予定のがん高度実践看護師教育課程との連携をしていく。そして、5大学院で協働して入学生の確保とCNS認定試験受験の支援に継続的に取り組んでいく。また、リカレント教育においては、アンケート調査を分析して、インテンシブコース(APNコース)においては新たなテーマの教育プログラムを開発し、がん高度実践看護師WG講演会においても新たなテーマを企画していく。これらの取り組みにより、高度実践看護師および地域の看護職の看護実践力の向上に貢献していきたい。